

令和2年度 提言まとめ

「しずおかのことをよく知って欲しい、魅力を伝えたい」「生まれ故郷のしずおかで働きたい、副業したい」「しずおかの企業をより知りたい」「しずおかで働きつづけたい」など、静岡市に住む、静岡市で事業を営む、静岡市で教えるなど、静岡市で生活する私たち一人ひとりが持つ“静岡市を愛する心”＝『しずおか愛』を中小企業等の振興を考える上においての土台として置き、その上で、本会議で検討するテーマの方向性として、

- ① 静岡市の産業、市の取組、中小企業等の取組を市民に「知らせる」
中小企業・小規模企業の実情を市民が「知る」
- ② 中小企業等が、副業、外国人人材の活用、SDGs 等に「新たに取り組む」
- ③ 学生等が地元の中小企業等について「学ぶ」
社会人が仕事をする上でのスキル向上等のために「学ぶ」

の3つを定めました。

(1) 「知る・知らせる」の視点

① 現状の課題

- ・ コロナ禍において、対面を伴う企業活動は自由に行うことが出来ないため、他社の情報を集めて「知る」ことや自社の情報等を発信して「知らせる」ことが、平時よりも重要となってくる。しかし、これらの情報発信・収集が苦手な中小企業やそもそもそれらを行っている余裕のない中小企業が多く存在している。
- ・ 情報発信・収集の重要性が一層増すコロナ禍においては、自社の情報等を伝えたい相手にピンポイントで伝えたり、広く認知してもらえるようにしなければならない。ただ発信するだけでなく、どのように「知らせる」か、その仕組みや行動を考えなければならない。

② 提言

- ・ 書き込みによる相談や情報交換・発信等、「知る・知らせる」ことを利用者が双方向でコミュニケーションを取りながら行うことができる「オンライン掲示板」の設置が必要。また、「オンライン掲示板」を利用して「知る・知らせる」ことで、これまでは繋がることのなかった企業同士の連携による課題解決のためのビジネスマッチング等へ繋がる可能性もある。

- ・「オンライン掲示板」の設置後は、その機能だけでなく、利用者へのアンケート機能等の様々な機能を有している「プラットフォーム」へと昇華させ、より一層中小企業が「知る・知らせる」ことに容易に携われるようにすることが必要。
- ・「プラットフォーム」を立ち上げて終わりにならないよう、金融機関を活用した積極的な情報発信が必要。また、高齢の事業者等、IT弱者になりがちな事業者も含めて事業者全員が利用できるようにするためのフォローも必要。

③ 具体的な施策案または施策例

- ・書き込みによる相談や情報交換・発信等の「知る・知らせる」機能だけでなく、中小企業の課題解決のためのビジネスマッチングや利用者へのアンケート調査等、様々な機能を有している「中小企業支援のオンラインプラットフォーム」の立ち上げとプラットフォームを活用した中小企業の「知る・知らせる」機能の強化。
- ・金融機関と連携し、市内中小企業への「中小企業支援のオンラインプラットフォーム」の周知や利用方法に関する積極的な情報発信とすべての市内中小企業がプラットフォームを利用できるようにするための説明会等のフォローの実施。

(2) 「新たに取り組む」の視点

① 現状の課題

- ・コロナの影響により、これまで以上に積極的な情報発信が求められているが、中小企業が固有技術等の「自社の強み」を知らなかったり、情報の発信力が弱く、「自社の強み」をどのように表現したらいいか分からない。
- ・中小企業がリモートワークや副業人材の活用などに「新たに取り組む」際に、最初にどこへ相談すればいいか分からない。
- ・コロナで倒産や失業が増える懸念があり、今後、事業承継がより必要となってくると思われるが、現状の事業承継は「娘に事業承継をする」という選択をする事業者がほとんどいない。

② 提言

- ・中小企業が「自社の強み」に気づき、表に出していけるよう、伴走的な支援をしていける人材を育成する必要がある。
- ・子育てを経験し、様々なことに愛情をもって接することができる「母親」の視点は、しずおか愛にも通じており、コロナ禍における新たな視点として活用していくべき。
- ・副業人材の活用を推進し、ITリテラシーの向上が求められている。
- ・オンライン等を活用し、中小企業のそれぞれの実情に合った新たな取組に対する「支援体制」や「最初に相談できる場」を整備する必要がある。

- ・ コロナの影響で事業承継がより重要となってくる中、娘がいる事業者に対して、「女性の視点」を取り入れることで解決策が見つかったり、新たな変化を起こせるかもしれないということに気づかせ、「娘への事業承継」という選択肢を増やすことが必要。

③ 具体的な施策案または施策例

- ・ 女性や副業人材等を活用し、中小企業に「自社の強み」に気づかせ、それが「宝」であることを認識させるための「宝さがし」チームの組織と「宝さがし」チームが発見した「自社の強み」を活かしたブランディング等、「自社の強み」の活用支援。
- ・ IT 初心者に対する教育等、事業者の様々なリテラシーレベルに寄り添える支援人材の育成とその育成環境の整備。
- ・ 中小企業のそれぞれの実情に合った新たな取組に対する相談のための場づくりと多くの中小企業に利用してもらうための情報発信。
- ・ 「女性後継者支援機関 A・NE・GO（アネゴ）」の活用と連携による女性への事業承継の促進。

(3) 「学ぶ」の視点

① 現状の課題

- ・ コロナの影響により、企業活動の様々な点において、IT 化・オンライン化が急速に進んでいるため、企業には「IT リテラシーの獲得」が求められている。
- ・ 企業説明会のオンライン化等が進んでいるが、企業と学生の間には IT リテラシーに対するレベルの差（企業＜学生）があるため、この差を埋めていかなければならない。
- ・ コロナの影響による IT 化やオンライン化が進んでいる一方で、データの流出や IT の導入＝危険のような先入観による IT 化の停滞等、情報セキュリティの低さや情報セキュリティに対する正しい理解ができていないことに起因する問題が起きている。

② 提言

- ・ 社内の IT に詳しい個人の能力に依存している中小企業が多いが、コロナ禍においては、社員全員の IT に関する能力を底上げし、会社全体で IT 化・オンライン化を担っていく必要がある。
- ・ 企業の IT 化を進めていく上で、企業の IT 化に対する様々なレベルのニーズに対応できるコーディネーターを紹介し、つないでくれるコンサルタントの専門家の設置が求められている。

- ・ コロナ禍においては、企業と学生の間にある IT リテラシーに対するレベルの差（企業＜学生）を埋め、どの企業においてもオンライン説明会等の学生のニーズに合った企業活動を行えるようにすることが必要。

③ 具体的な施策案または施策例

- ・ 社員全員の IT リテラシーの底上げによる会社全体での IT 化・オンライン化の推進とその推進環境の整備。
- ・ 企業の IT 化に対する様々なレベルのニーズに合ったコーディネーターを紹介し、つないでくれるコンサルタントの専門家の設置。
- ・ オンライン説明会等、学生のニーズに対応した企業活動の導入や実施に対する支援とその支援環境の整備。

2. 今後の検討テーマ（コロナ関連以外の課題）について

◆ 検討テーマの候補について

- ・ 学生のキャリア形成教育や学生だけでなく、その保護者にも地元中小企業を知ってもらうための取組、社会人のリカレント教育等、教育分野を通じた「しずおか愛」の醸成や「しずおか愛を育む人材」の育成について
- ・ 「(仮称) 第3次静岡市産業振興プラン」に盛り込む、今後の中小企業振興の方向性、必要な視点や取組等の検討について
- ・ 人手・人材不足や事業承継等、コロナ禍以前からある中小企業に共通した経営課題の解決方法の検討について
- ・ 障がい者雇用や副業人材の活用等、これから発生していく可能性のある「未来の課題」に向けた取組の研究について
- ・ 事業協同組合や官公需適格組合等、個別の企業以外で本市産業を下支えしている団体等を広く市民に知ってもらうための周知方法やこれらの団体等に対する支援策の検討について
- ・ 応援会議委員同士の協力や委員の持っているネットワークを活用した中小企業支援の検討について
など